

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 1 日

事業所名 コベルプラス 東小金井 教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0		
	②	職員の配置数は適切である	7	0	社内のダブルチェックおよび定期的に行行政と連絡を取り確認している	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	絵と字で設備が誰にでも分かるよう努めている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	毎日、出勤後と退勤前に掃除をしている。エアコン、空気清浄機、加湿器などを各部屋に設置して、定期的メンテナンスもしている。	
業務 改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	小さな事柄や変化も話し合い改善に常に努めている	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	年 1 回の自己評価を実施し改善に努めると共に、日頃から利用者のニーズに耳を傾けるようにしている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	定め通り自己評価の結果を公表している。改善点を職員間で話し合い	

					合わせて公表している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1	開所 3 年に伴い今年度実施している。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	年に数人の職員が外部研修を受けている。内部研修は定期的に全職員が受けている。	職員が興味のある研修を選んで受講したり、スキルアップや資格取得のための研修の機会を増やしていきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	例外なくアセスメントを実施。モニタリングも適切に行っている。職員間、利用者（保護者）のニーズを常に大事にしている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	常に統一された課題によりアセスメントを実施している	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	保護者からのご要望やお子様の様子を踏まえて支援計画を作成している。	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	毎朝、支援計画を確認し、支援中も確認できる場所に支援計画を貼り付けている	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	定例の立案に加え、思い立った場面では PDCA サイクルを常に行っている	

	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	月に一度の大きな活動内容変更に加え、支援員が個々に工夫をしている	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	7	0	保護者の要望、支援員の気づきを生かし総合的に作成している	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	毎朝ミーティングを行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	前回の様子に加え特記すること注意点を確認している	支援終了後、その日には行っていないが、次回の支援前には朝のミーティング時に情報共有を行っている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	情報共有のためにノートに様子等を記入している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	十分に行っている	
関係機関や保護者との連携関係機関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1		参加する機会はないが機会があればお子様にふさわしいものに参加したいと考えている
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	関係機関と必要に応じて連携している	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	0		該当するお子様がいません。 未回答 5名
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	0		該当するお子様がいません。 未回答 5名

や 保 護 者 と の 連 携	⑲	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		保護者からの依頼があった時に情報共有を行っている
	⑳	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		同上
	㉑	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	研修など参加可能な場合に参加している	
	㉒	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6		機会があれば交流したいと考えている

保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	⑲	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	6		今のところはないが機会があれば参加したいと考えている
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	療育のフィードバックの際に話しをしている。	
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	0	ペアレント・トレーニングを定期的開催している。	
	㉒	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	丁寧に説明するよう心掛けている	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	十分に説明し、同意を受けている	
	㉔	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	モニタリングに加え常日頃から保護者にお声掛けをしてお話をきいている	
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	毎月のペアレントトレーニングと年に2回のペアレントメンターの会を開催	

	⑩	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	保護者の申し入れに加え、こちらからも定期的に相談がないかを確認し、相談があった場合の受け皿になれる土台作りをしている。	
	⑪	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	ハグシステムによる活動記録欄や掲示板を使ってお知らせしている	
	⑫	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	守秘義務にのっとり対応している	
	⑬	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	保護者からの聞き取りおよび職員間の情報共有を生かし、常に配慮している	
	⑭	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	見学希望があった場合は受け入れできる体制がある	地域住民を招待することは、まだない
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	職員間および利用者を交えて確認する機会をもうけている	
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	毎年職員の消防署での訓練および、利用者を変えた訓練を年に2回行っている。災害時の職員の役割を事前に決め備えている。	
	⑰	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	契約時に告知いただいている	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	アセスメント時にアレルギーの有無を聞き取りしている	食事の提供がない 未回答 1 名
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	十分確認し、環境設定などを見直している	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	年 2 回以上研修の機会を設けている。外部・内部で研修に参加、情報共有に努めている。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	契約時に十分説明している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。